

# にしっこ 西っ子のみなさんへ 39

8月20日

8月20日（1842年）は、<sup>きょくてい</sup> 曲亭馬琴（<sup>たきざわ</sup> 滝沢馬琴）が28年をかけて執筆した「<sup>なんそうさとみはっけん</sup> 南総里見八犬伝」を完成させた日です。八犬伝は全98巻106冊におよぶ大作（<sup>ばきん</sup> 娯楽小説）で、馬琴は原稿料で生活できるようになった江戸時代最初の作家であると言われています。ベストセラー作家の先駆者といえます。

馬琴は48歳から75歳の半生をこの作品づくりに費やしたのですが、執筆途中に失明するという困難に遭遇し、息子の嫁であるお路の口述筆記により最終話まで完成させたとされています。

『南総里見八犬伝』は、<sup>むろまちじだいこうき</sup> 室町時代後期を舞台に、<sup>あわさとみけ</sup> 安房里見家の<sup>ひめ</sup> 姫・<sup>ふせひめ</sup> 伏姫と<sup>しんいぬ</sup> 神犬「<sup>やつふさ</sup> 八房」の因縁によって結ばれた八人の<sup>むす</sup> 若者（<sup>わかもの</sup> 八犬士）たちを主人公とする小説で、<sup>ちゅうごく</sup> 中国の『<sup>すいこてん</sup> 水滸伝』の影響を受けて書かれていることは有名な話です。

「犬」の字を含む名字を持つ八犬士（<sup>いぬえしんべい</sup> 大江親兵衛・<sup>いぬかわそうすけ</sup> 犬川荘助・<sup>いぬむらだいかく</sup> 犬坂毛野・<sup>いぬやまどうせつ</sup> 犬山道節・<sup>いぬかいげんはち</sup> 犬飼現八・<sup>いぬづかし</sup> 犬塚信乃・<sup>いぬたこぶんご</sup> 犬田小文吾）は、それぞれ「仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌」の文字のある数珠の玉（<sup>じんぎ</sup> 仁義八行の玉）を持ち、<sup>からだ</sup> 身体のどこかに<sup>ぼたん</sup> 牡丹の形のアザがあります。玉に書かれたそれぞれの文字は、<sup>じゆぎょう</sup> 儒教における8つの徳を表しています。

「八犬伝」というと、<sup>わたし</sup> 私は、1973～1975年にNHKで放送された人形劇『<sup>しん</sup> 新・八犬伝』を思い出します。（原作のままでなく、<sup>ばきん</sup> 馬琴の他の作品も取り入れたアレンジ<sup>さくひん</sup> 作品。）平日の夕方に15分番組として放送されていました。辻村寿三郎氏による人形がとても素敵で、「<sup>たますざ</sup> 玉梓が怨霊」の人形には本物の着物が使われていたことを思い出します。

「<sup>しん</sup> 新・八犬伝」のマスターテープは、<sup>ほうそうしゅうりょうご</sup> 放送終了後にほとんどが消去されてしまったため、<sup>げんぞん</sup> 現存する視聴可能なテープは4放送分しか残されていないそうです。

You Tubeで人形劇を再現したのを見ることができまので、<sup>きょうみ</sup> 興味がある人は見てください。

図書室には、上下2巻の「里見八犬伝」の本がありますよ！

